

「保健医療科学」
第63巻 第1号 予告

特集：乳幼児の身体発育（仮題）

人口動態統計（仮題）	吉田穂波
乳幼児身体発育調査・学校保健統計調査（仮題）	加藤則子
乳幼児健診（仮題）	山縣然太郎
母子保健分野の疫学研究（仮題）	吉田穂波，横山徹爾

編集後記

社会情勢の変化により社会保障制度の改革が求められているが、今回の特集では、社会的整合性を考慮しながら保健医療の効率性の向上を目指し、学術的に適切な費用対効果の評価方法と我が国での政策への応用の可能性などが、各分野の専門家により詳しく述べられている。広い視野に立って評価するアプレイザルの考え方は、倫理的、社会的視点からの評価であり、国民に広く理解され受け入れられるためにも必要となる。我が国において、医療経済評価ガイドラインが確立されれば、調査研究報告の透明性、信頼性が高まり、政策应用到結びつく可能性が高まる。ワクチンや医薬品について費用対効果の評価法が整うことにより、国民の健康や生活に大きな利をもたらすことになる。診療報酬制度において費用対効果評価法を有効に活用することは、医療費高騰の現況には必要となる。地方保健医療行政実務者からの考察は、現場での実践から得られた実感がよく伝わってきた。報告様式のガイドとなるCHEERS声明により、論文の適切な評価と研究の質の管理が推進され、また科学的価値に加え社会的価値判断を取り入れているNICEの報告書は、我が国へ医療経済評価法を導入するにあたり大いに参考となる。今後この分野の研究が発展し、国民に利益が還元されることが期待される。

(生涯健康研究部 守屋信吾)